

スタッフ紹介 Staff



お名前 谷頭 秀紀さん
所属部署 シンフォニー サービス提供責任者
趣味 愛車でのツーリング



お名前 別府 恵美さん
所属部署 2階本館 副師長
趣味 音楽

憧れの看護師

私が学生だった頃、祖母が受けていた介護サービスはお世辞にも温もりが感じられるとは言いにくいものでした。昼になっても目ヤニは付いたまま、「微熱があるのが不安なんです……」と家族が相談しても取り合ってくれないなど、およそ利用者に寄り添う姿勢は希薄でした。前職を辞め、介護の世界に飛び込んだのはその時の怒りと「自分ならもっとちゃんとやれる」という思いからでした。もちろん現実はそのままで単純ではありませんでした。でも、日々、患者様の「こんなことをやりたい」という思いをサポートさせていただいたり、逆に患者様からいろいろなことを学ばせていただいたりするこの仕事に、大きなやりがいを感じています。

私が看護師になったきっかけは、小学生の頃に九州のおじいちゃんの家へ往診にきていた看護師さんに憧れたことでした。それから幾年月、結婚を機に大阪に出てきて藤本病院で働き始めて、もう20年以上が経ちました。長く働いていると、昔からの付き合いの人も多く、以前担当していた手術室時代に初めてお会いした患者様と病棟で再会したり、かつてはお母さんと一緒に病院にきていた女の子が成人し、同じ看護師になっていたりします。今は世の中も病院も、新型コロナウイルス感染症で大変な状況ですが、長く藤本病院に通ってくださっている患者様を守るために、自分たちができることを一生懸命にやっていきたいと思っています。



青魚、大豆製品でコレステロール対策

ブリの脂には動脈硬化予防にもなるEPA、DHAが豊富に含まれています。また、大豆製品にはイソフラボンが入っています。どちらの成分もコレステロール対策になるので是非取り入れてみてくださいね！

材料 (2人前)

<p>■ブリ煮付け</p> <p>ブリ……………2切れ 生姜……………1かけ弱</p> <p>濃口醤油…小さじ2弱 A 砂糖……………小さじ1強 みりん……………小さじ1 ふき……………50g</p> <p>B 濃口醤油…小さじ1/2 みりん……………小さじ1/2</p>	<p>■ひじき豆</p> <p>大豆(水煮)……………30g 干しひじき……………少々 にんじん……………20g ごぼう……………20g 濃口醤油…小さじ1+1/2 砂糖……………小さじ1 みりん……………小さじ1/2</p>	<p>■お浸し</p> <p>なす……………150g みつば……………少々 淡口醤油…小さじ1</p>
---	---	---

作り方 ブリ煮付け

- ①生姜は薄切りにしておく。ふきは3cmくらいの長さに切っておく。ブリは湯通しをして臭みを取っておく。
- ②鍋にブリと生姜、水300mlを入れ、強火にかける。煮立ってきたらアクを取る。調味料Aを入れ、落し蓋をして約20分煮る(煮汁が少なくなるまで煮る)。
- ③ふきは調味料Bで煮る。



〒572-0838 大阪府寝屋川市八坂町2番3号
 京阪本線 寝屋川市駅 徒歩5分


- 午前診療** ●受付8:00~11:45 ●診療時間9:00~
- 午後診療** 午後診は予約制です(一部除く) 詳しくはお問い合わせください。 **072-824-1212**
- 夜間診 月・水・金** ●受付17:00~19:45 ●診療時間18:00~
- 関連施設** ●サービス付き高齢者向け住宅シンフォニー ●介護老人保健施設ハーモニー
 ●居宅介護支援事業所 ●訪問看護ステーション

2020年10月号! ポンず

P O N ' S

No.12

ボクが待ってるよ~!

お名前 上山 泰男先生
所属部署 総合診療外科
趣味 読書

般若心経

今年8月から一祐会、藤本病院に勤務いたしております、上山(かみやま)泰男です。担当は総合診療外科です。80歳です。趣味ですが、何もありません。強いて言えば読書でしょうか、本屋さんで面白そうな表題のものを読みます。仏陀の教えや般若心経関連の本に少し興味があります。子供は義理の子供を含めて6人、孫も6人です。



藤本病院の先代の理事長先生、奥様には30年前から関西医科大学外科学教室に在職中以来、何かとお世話になっておりました。大学定年退職後、徳洲会に入りまして、主に奄美の離島で外科医として、また総合診療の修行を積みました。総合診療とは全人的に人間をとらえ、特定の臓器・疾患に限定せず多角的に診療を行うものです。

日頃思っていることですが、高齢者は人生の大先輩であります。身体的、精神的機能の衰えは、精一杯生きてこられた結果です。頑張って仕事をして、子供を育て、教育し、年金を払い、老後の生活費を工面してこられたのです。高齢者は一つの体に多くの病気を持っていることが多いです。でもこれらは人生の勲章でもあります。急性肺炎で来院された高齢者には難聴があるかもしれません。認知機能が落ち始めているかも知れません。食べ物をうまく飲み込めなくなっているのかも知れません。筋肉も痩せているでしょう、筋力も落ちているでしょう。運動神経が落ちており転倒しやすくなっているでしょう。細菌に対する抵抗力も落ちているでしょう。通院は息子さんが会社を休んでやっと連れてこられたのかも知れません。これを持ちながら、いろいろ工夫して、子供たちに心配、迷惑をかけないように、辛抱されて生活されておられるのかも知れません。

一祐会藤本病院では緊急の手術も行っております。外科系以外の病気には内科の先生が対応いたします。ご病気が落ち着いたけれども、病気をきっかけにご自宅での生活が難しくなったり、あるいは奥様の負担が増すなど、ご自宅に戻るのが難しくなることもあるでしょう。一祐会グループには、介護老人保健施設、サービス付き高齢者住宅もありますので退院後のお住いの場所のご案内、対応も可能です。

ご心配なことがあれば、まず、外来にお越しください。私のささやかな経験を生かして、お年寄りに優しい、診療をさせていただきたいと思っています。



寝て起きたら終わっていた♪

藤本病院スタッフ 上下部内視鏡 (ダブル) 体験記



体験者：町田 恒一さん
年齢：42歳
職業：藤本病院
地域連携課
スタッフ



いつも
お世話になっています。
藤本病院で
地域連携課に勤めている
町田と申します。

「病院での検査が大好き」という人はほとんどいないですね。
面倒だし、医師やスタッフの方はできるだけ配慮してくれますが、それでも痛かったり苦しかったり……
ということが多少はありますから。
病院で働いていますが、実は私も検査はちょっと苦手。

今回はそんな私が8月に受診した「上下部内視鏡検査」について、リアルな体験を書いてみます。

Step 1 予約と検診

8月に入り、お腹の調子がすぐれない日が続いたので、外来受診を予約。消化器内科の高尾先生に診察をしてもらったところ、「内視鏡検査をしてみましょう」ということに。9日後に上下部を一緒に検査することが決まりました。



Step 2 検査の説明

検査が決まると、高尾先生からは「ポリープが見つかったらどうします?」というご質問がありました。その場で取ってしまうと、手間がかかりませんが、大きさによっては1日程度入院する必要があるといいます。
仕事の日程は大丈夫そうだったので、「ポリープは取ってください」とお願いすることに。その後、看護師さんからは検査前日・当日の食事や下剤の飲み方などについて、詳しい説明がありました。



ポリープが見つかった場合でも、ご都合により入院ができない時は、検査後日を改めて、切除の方向でのご対応をさせていただきます。



Step 3 検査当日

検査に備えて、朝食はなし。代わりに家で飲むために渡された下剤を飲みました。
病院には朝8時30分に到着。受付をすませたら、血圧や体温を計測。問題はなかったため、約2時間をかけて下剤を飲み、トイレに通います。
13時頃、便が透明な液状になったので、準備完了。



Step 4 検査

胃の中の泡を取る薬を飲み、喉の麻酔ゼリーを3分ほど口に含んでから飲み下します。その後はいよいよ検査室。検査台の上で横向きに寝転がり、口にはマウスピースを装着。その状態で麻酔をかけてもらうのですが……その後の記憶はありません。
目が覚めると、最初にいたリカバリールーム。痛いとか苦しいとかいうのはほとんどないまま、検査は終了しました。
あとで、検査中写真を撮影していたスタッフに確認したところ、最初に胃カメラの検査があり、その後、スタッフが機材の配置等をテキパキと変えて、大腸の検査に移行していたとのことでした。



Step 5 説明



検査の結果について、高尾先生から説明を受けました。大腸にポリープがあったとのこと。幸い、ポリープは小さめだったので、切除しても入院の必要がないため、そのまま取ってもらえた、とのことでした。

取ったポリープは悪性のものかどうか、検査に回すということなので、結果が出たらまた、説明してもらうことになっています。朝8時30分に来院して、病院を後にしたのは15時過ぎ。検査の間は寝ていたこともあり、あっという間の1日でした。



体験してみても



サラリーマンの私にとって、上下の内視鏡検査が1日で終わるのは、とてもありがたいと感じました。麻酔が効いている間に検査が終わったので、少し心配だった痛みや苦痛を感じることもなく、「寝て起きたら終わっていた」という印象です。また、しっかり検査をしていただけたので、少なくとも消化器の病気については心配がなくなったことも、私には大きなメリットでした。